

2022-2024 トランポリン FIG 採点規則の変更点 (第3版)

2022-2024 FIG 採点規則が発表され、本会においても精査を行ってまいりました。
2022年度からの適用に際し、以下に現時点での変更点をまとめております。

なお国内での正式な規則の通達は、2022年2月12日に開催する1種伝達講習会にて行います。現在発表されている内容から変更される可能性があることをご承知おき下さい。

[2022年1月26日：5.世界年齢別大会ルールにDMT/TUMに関する補足を追記](#)

1. 概要

今回の採点規則では、E得点、D得点の採点方法に関する大きな変更点は有りません。

大きな変更点は予選・決勝の実施方法と、予選第1ラウンドが自由演技2本で得点の高い方を採用する、という点になります。つまり、予選における「第1演技」は廃止されます。

なお年齢別大会（16歳以下）の予選は従来通り特別要求のある第1自由と第2自由の合計で争います。

2. 競技実施方法

(1) トランポリン

個人競技、シンクロナイズド競技とともに下記の構成となります。

競技区分	対象者	実施内容	スターティング オーダー
予選1 (Q1)	全出場者	2本の自由演技 ※どちらか点数の 高い方を採用	抽選
予選2 (Q2)	全出場者が48名以上の場合 予選1上位24名	1本の自由演技	抽選

	全出場者が 32～47 名の場合 予選上位 16 名 全出場者が 31 名以下の場合 実施しない ※各国最大 3 名まで		
決勝 (Final)	上位 8 名 ※各国最大 2 名まで (シンクロは 1 グループ)	1 本の自由演技	抽選

- 予選 1 は 12 名以下にグループ分けされ、各々のグループ内で 2 回の演技。
- 予選 2, 決勝は 0 点スタート。
- 年齢別競技においては、予選で 2 回の演技を実施し、その合計を得点とする。

(2) タンブリング・ダブルミニ

競技区分	対象者	実施内容	スターティング オーダー
予選 1 (Q1)	全出場者	2 本の自由演技 の合計	抽選
予選 2 (Q2)	全出場者が 48 名以上の場合 予選 1 上位 24 名 全出場者が 32～47 名の場合 予選上位 16 名 全出場者が 31 名以下の場合 実施しない ※各国最大 3 名まで	1 本の自由演技	抽選
決勝 1 (F1)	上位 8 名 ※各国最大 2 名まで	1 本の自由演技	抽選
決勝 2 (F2)	上位 4 名 ※国別最大枠無し	1 本の自由演技	F1 の順番

- 予選 1 の 2 本の自由演技において、種目の繰り返しは認められない。
- タンブリング予選 2 では、予選 1 の種目を繰り返し使用してもよい。
- ダブルミニ予選 2 では、予選 1 と異なるゾーンで実施する場合のみ繰り返し使用で

きる。

- 決勝1と決勝2で、種目の繰り返しは認められない（予選の種目は使用可能）。
- 予選2、決勝1、決勝2は0点スタート。

種目繰り返しに関する補足説明

2017-2020 ルールでは、タンブリングは直前に技が異なる場合は種目の繰り返しが認められていましたが、2022-2024 ルールではその条項が無くなりました。

例) 第1演技

(f	f	-- /	^	f	^	-- <
0.1	0.1	0.1	2.4	0.2	0.1	0.2	2.2

第2演技

.1	2.	f	^	-- /	^	f	2 2 /
0.8	0.9	0.1	0.2	0(rep)	0.2	0.1	3.6

同様に、ダブルミニも前ルールでは実施場所が異なる場合は種目の繰り返しが認められていましたが、新ルールでは繰り返しとみなされます。

3. その他変更点

(1) 共通

- 1グループは12名を超えない。総数が12の倍数でない場合は、最初の方のグループの人数が多くなる。

例) 49名の場合、G1=10名、G2=10名、G3=10名、G4=10名、G5=9名

(2) トランポリン

- 団体競技の予選得点は、1回目の自由演技の上位3名と2回目の自由演技の上位3名の合計（6選手分）となる。
- 団体競技決勝：ポイント制に変更。各ラウンド1位5点～5位1点で、3ラウンドの合計で順位を決定する。
- 1タッチウォーミングアップ：試技順で行う。前の選手のウォーミングアップが完了した後に計測開始し、40秒で選手に警告する。45秒を超えた場合はペナルティ0.3。また、競技会場と隣接したサブがある場合、ウォーミングアップは行われない可能性がある。
- タイムオーバー：現行ルールと同じだが、演技開始後151秒に警告音で通知する。
- 10種目を超える演技：ペナルティ2.0からE審判員によるランディング1.0減点に変更。

- シンクロナイズド：同時性欠如による中断の判断が、着床時間差 0.5 秒から 0.4 秒に変更。
- E 得点は Median Score のみ。ミッシングスコアも種目ごとに平均。
- D 審の呼称：D1,D2 から D7,D8 に変更。

(3) タンブリング

- E 審判 6 人制に変更。それに伴ない下記のように変更。
 - ✓ E 得点 30 点満点から 20 点満点に変更
 - ✓ CJP の合図から 20 秒以内に演技開始しないペナルティ 0.3 から 0.2 に変更
 - ✓ コーチ声掛け、合図のペナルティ 0.9 から 0.6 に変更
 - ✓ 最終種目がランディングエリアでない（リバース種目除く）場合のペナルティ 0.6 から 0.4 に変更
 - ✓ 最終種目が宙返りでない場合のペナルティ 3.0 から 2.0 に変更
 - ✓ 9 種目以上実施した場合、ペナルティ 3.0 から E 審判員によるランディング 1.0 減点に変更
 - ✓ トラックまたはランディングゾーンの外側のラインを超えての着地 ペナルティ 1.5 から 1.0 に変更
 - ✓ 着地の後にランディングゾーンからランディングエリアもしくはトラックの外側へ触れる、もしくは飛び出した場合のペナルティ 0.3 から 0.2 に変更
- 予選のサルトパス、ツイストパスは廃止。
- D 審の呼称：D1,D2 から D7,D8 に変更。
- ロンダード、バク転、テンポ宙返り同様にフルツイストも繰り返し使用することができる（D 得点が加算される）。

(4) ダブルミニ

- E 審判 6 人制に変更。それに伴ない下記のように変更。
 - ✓ E 得点 30 点満点から 20 点満点に変更
 - ✓ CJP の合図から 21 秒以内に演技開始しないペナルティ 0.3 から 0.2 に変更
 - ✓ コーチ声掛け、合図のペナルティ 0.9 から 0.6 に変更
 - ✓ 演技中に器具等に触れたペナルティ 0.3 から 0.2 に変更
 - ✓ ゾーン B への着地ペナルティ 0.9 から 0.6 に変更
 - ✓ ゾーン C への着地ペナルティ 1.5 から 1.0 に変更
 - ✓ ゾーン A から B、C への移動、およびゾーン B から C への移動ペナルティ 0.3 から 0.2 に変更
- D 審の呼称：D1,D2 から D7,D8 に変更。

4. タイ・ブレイクルール

(1) トランポリン個人・シンクロ

1. 採用する演技の T 得点が高い選手（シンクロの場合は S 得点）
2. 採用する演技の H 得点が高い選手
3. 採用する演技の D 得点が高い選手
4. 採用する演技の全ての E 得点が高い選手
5. 2 本の自由演技の E 得点の合計点の最も高い選手（予選 1 にのみ適応）

(2) タンブリング/ダブルミニ個人

(i) 予選 1

1. 2 本の演技の D 得点が高い選手
2. 2 本の演技の E 得点が高い選手
3. 2 本の演技の全 E 得点の合計から、種目ごとに一番低い E 得点を引いた得点
4. 2 本の演技の全 E 得点の合計から、種目ごとに下位 2 つの E 得点を引いた得点。以降、下位 3 つ、4 つ、5 つと決着がつくまで行う。

(ii) 予選 2

予選 1 の順位が高い選手

(iii) 決勝 1

予選 2 の順位が高い選手

(iv) 決勝 2

決勝 1 の順位が高い選手

団体、オールアラウンドについては採点規則でご確認下さい。

5. 世界年齢別大会ルール（概要）

(1) トランポリン

- 個人競技：17-21 歳を除き、特別要求のある第 1 演技（D 得点なし）と、第 2 演技（自由演技）の合計で予選を行う。決勝は 1 本の自由演技を行う。
- シンクロナイズド：予選は 1 本の自由演技を行う。決勝は 1 本の自由演技を行う。
- 1 種目あたりの難度上限は下記のとおり。

	11-12 歳	13-14 歳	15-16 歳	17-21 歳
TRA	1.6	1.8	1.8	2.0

- 11-12 歳は 3 回宙返り禁止。全クラスで 4 回宙返り禁止。使用した場合は失格。

11-12 歳 特別要求

演技は 10 種目の異なった技で構成されなければならない。うち 2 種目は 270 度未満の宙返り種目を含むことができる。下記の特別要求を満たす種目にはアスタリスクマークを記載する。一つの技で複数の要素を満たすことはできない。

1. 腹で着床する種目
2. 背中で着床する種目
3. 1 回宙返りで少なくとも 1 回以上のひねりを伴う種目

13-14 歳/15-16 歳 特別要求

演技は 10 種目の異なった技で構成されなければならない。うち 1 種目は 270 度未満の宙返り種目を含むことができる。下記の特別要求を満たす種目にはアスタリスクマークを記載する。一つの技で複数の要素を満たすことはできない。

1. 腹または背中で着床する種目
2. 1. と組み合わせた種目
3. ひねりを伴う、伴わないにかかわらず、前方または後方の 2 回宙返り種目
4. 1 回宙返り(360 度)以上における 540 度以上のひねりを伴う種目

(2) タンブリング

- 予選では 2 本の自由演技を行い、その合計が予選得点となる。
- 予選 2 本の自由演技の中で、技の繰り返しは認められない。ただし、ロンダード、バク転、テンポ宙返り、1 回ひねり宙返りは繰り返し使用できる（シニア規則と同様）。
- 決勝 1 では 1 本の自由演技を行い、上位 4 名が決勝 2 に進出する。
- 決勝 2 では 1 本の自由演技を行う。なお決勝 1 と決勝 2 における技の繰り返しは認

められない（ロンダート等を除く）。ただし、予選の技（構成）との繰り返しは認められる。

- 1 種目あたりの難度上限は下記のとおり。

	11-12 歳	13-14 歳	15-16 歳	17-21 歳
TUM	2.8	4.3	4.3	4.5

- 11-12 歳は 3 回宙返り禁止。全クラスで 4 回宙返り禁止。使用した場合は失格。

(3) ダブルミニ

- 予選では 2 本の自由演技を行い、その合計が予選得点となる。
- 予選 2 本の自由演技の中で、技の繰り返しは認められない。異なるゾーンでの技の使用も繰り返しとなる（シニア規則と同様）。
- 決勝 1 では 1 本の自由演技を行い、上位 4 名が決勝 2 に進出する。
- 決勝 2 では 1 本の自由演技を行う。なお決勝 1 と決勝 2 における技の繰り返しは認められない。ただし、予選の技（構成）との繰り返しは認められる。
- 1 種目あたりの難度上限は下記のとおり。

	11-12 歳	13-14 歳	15-16 歳	17-21 歳
DMT	4.0	4.6	4.6	5.2

- 11-12 歳は 3 回宙返り禁止。全クラスで 4 回宙返り禁止。使用した場合は失格。

6. 参照

(1) 2022 – 2024 CODE OF POINTS

https://www.gymnastics.sport/publicdir/rules/files/en_TRA%20CoP%202022-2024.pdf

(2) Rules for Junior and World Age Group Competition (WAGC) 2022 – 2024

https://www.gymnastics.sport/publicdir/rules/files/en_TRA%20Junior%20and%20WAGC%20Rules%202022-2024.pdf

(3) Newsletter No.26

http://www.fig-docs.com/website/newsletters/TRA/2021/TRA_NSL_26_en.pdf

以上